

事業所名 グループホームサンバード茶屋町

日付 平成18年2月7日
特定非営利活動法人

評価機関名 ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験17年
評価調査員 老人保健施設介護実務経験5年、居宅支援
事業所介護支援専門員経験5年
評価調査員 在宅介護経験12年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

外部評価の結果

論評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

利用者のレベル低下を心配しながら1年半ぶりの訪問であったが、以前同様、台所でにぎやかに食事の準備をする利用者の姿に安心した。また、男性利用者が丹精込めて栽培していた大輪菊の鉢植えもあった。このことから、利用者の心身の状態に大きなレベル低下はなかったことを確信した。聞いてみると、やはり高齢者なりに病気や入院はあり、少しずつレベルは低下してきているとの事。しかし、'利用者が持っている力を精一杯発揮でき、活き活きと生活出来るように支える。'支援は変わらずに実践できているように思えた。その上に、利用者との信頼関係は深まってきているようだ。

2つのユニットごとに職員が話し合っておりその日の日課や献立を決めているので、それぞれの特徴あるケアが行われている。しかし、両ユニット共、'一人ひとりの能力を生かす。'という方針は同じであるし、共同で行事を行ったりもしている。月1回の習字教室はボランティアの先生を迎えて、利用者には大好評のようだ。また、利用者の意見を聞きながら事を決める方針も続いており、利用者の希望するところへ出かけたり、話し合いの場を設けたりしている。

このホームが誇りとするものの一つに、小学校の生徒との交流がある。体験学習をきっかけに手紙の交流や相互訪問などが行われている。この日は発表会に招待されて7名の利用者が参加した。地域との交流も自然体で開かれたものにして実践しているところである。

特に改善の余地があると思われる点 次のような提案をした

加齢と共に心身のレベル低下がおこり、出来ていた趣味や作業が出来なくなった人には、寄り添って声をかけたり話を聞くなど、積極的な働きかけをしていく必要があると思う。
歯磨きは個人の自主的な習慣に任されている面もあるが、今後は加齢と共に食生活の変質にも大きく関わる口腔ケアに十分な注意を払い、密な声かけや確認、歯科医との連携などをしていって欲しい。
家族の訪問は多く連絡はよくとれているが、家族会などを設け職員と本音で話せる機会ができれば、より良いサービスが提供出来ると思う。

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にされた整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物物の支援		
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		

記述項目 一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か

比較的自立度の高い利用者が多いので、身体的なケアとしては、健康チェックやトイレ誘導のほかは見守りが中心となり、現在のところでは問題なく十分に行われている。しかし、生活の基盤となることなので、声かけをしっかりと行いながら、健康維持や体力維持に務めていって欲しい。

レベルが高い人が多い事は、それだけ精神面のレベルを維持し、豊かな精神活動を行っていく必要があるが、このホームではその点を重視している。一人ひとりの持っている能力を活かし、その能力を出来るだけ長く維持していくことを支援し、自信を持って生活できるようにしている。そのために、料理をしてもらったり、習字教室を開いたり、趣味の支援をしている。また楽しく生活出来るように、利用者の意思を尊重して、希望の多い場所によく外出もしている。

加齢とともに少しずつレベル低下の兆しもあり、趣味などができなくなった人を中心に、利用者のそばに寄り添って、ゆっくり話を聞くケアも忘れてはならないと欲しい。どの利用者も声をかけてもらうことを望んでいると思う。

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		

記述項目 サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か、

面会も多いので、'たより'の発行や面会時の状況報告等で、家族との連携はよく行われていると思う。さらに家族と職員が本音で話し合える機会があれば、もっとうれしい。

小学生との交流は相互に気持を寄せ合うという、素晴らしい関係ができていて、利用者にとっても役に立つという生きがいや喜びをもたらしている。また、小学生にも老人福祉への喜びなど多くのことをもたらしていると思う。

積極的に地域へ出掛ける姿勢を持っているのだが、普通の近所づきあいにはさらに地道な働きかけが必要だと思う。散歩等で挨拶を交わしたり、町内の掃除を手伝ったりすることを続けて、近所の人に来て話しをして帰るようになると利用者にもうれしいことだ。そうすれば、認知症への理解も深まり、認知症介護の拠点としての役割もさらに大きくなると思う。

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
	'個性を尊重した自立支援'を最大目標としており、経歴や趣味を良く理解し、利用者一人ひとりができることに取り組みませあげ、意欲を持って生活できるように手助けしている。利用者の意見を聞く事を重視し、外出先や参加を利用者の話の中から決めたり、'仲良く談話会'という話し合いの会を設けたりもしている。 また、自然体での生活も目標としており、利用者との職員間の信頼関係作り、利用者との地域の人との普通の交流ができる関係作り等をしていこうとしている。		

生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
	広いホーム内はゆとりのある空間となっており、好みの居場所で好きなことができる。また鍵などの規制をせず、自由に庭や畑に出ることもできるので、落ち着いた生活ができる。リビングや居室内には利用者の作品や写真、職員手作りの装飾品などを飾り、植物も配置されていて、楽しい生活や生きがいをもたらす配慮をしている。		

ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人で行えることへの配慮		
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		